

「廃炉基盤研究プラットフォーム」の発足について（お知らせ）

日本原子力研究開発機構（原子力機構）廃炉国際共同研究センター（CLADS）は、文部科学省が実施している「廃止措置研究・人材育成等強化プログラム」の採択機関である東北大学、福島大学、東京大学、東京工業大学、福井大学、福島工業高等専門学校、公益社団法人地盤工学会とともに、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の廃炉に関わる基礎基盤研究分野での幅広い連携を進めるため、基礎・基盤研究の推進協議体である「廃炉基盤研究プラットフォーム」（事務局：CLADS）を設置しました。

同プラットフォームは、原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）に設置された廃炉研究開発連携会議と連携しつつ、今後、「廃炉のための研究基盤の拡大」、「現場情報、ニーズの共有によるタイムリーな成果の展開」、「人材の育成」、「原子力機構が整備する国際共同研究棟の活用」等の活動を進めます。

平成 28 年 12 月 15 日に、同プラットフォームの第 1 回運営会議を開催^{※1}し、国内外の多くの研究者、研究機関の参加が得られるようバザールのアプローチ^{※2}を行うといった活動方針を決定しました。

※1 運営会議メンバー：CLADS、東北大学、福島大学、東京大学、東京工業大学、福井大学、福島工業高等専門学校、公益社団法人地盤工学会の関係者が出席。また、オブザーバーとして、文部科学省、NDF、技術研究組合国際廃炉研究開発機構、東京電力株式会社、国立研究開発法人科学技術振興機構の関係者が出席。

※2 バザールのアプローチ：課題を明確にした上で、戦略的な基礎・基盤研究の全体の見取り図を作成し、その全体図の中の研究内容について、多様なプレーヤー（大学、研究機関、企業、事業者）が、専門知識、技術、アイデアを持ち寄り連携し、競い合うことにより、研究成果をタイムリーに提供し、基礎・基盤研究成果を応用研究、実用化、実際の廃炉作業につなげるような取り組み。

【参考資料】 廃炉基盤研究プラットフォーム図

廃炉基盤研究プラットフォームの位置付けと活動方針

